

有明海におけるクルマエビの放流効果

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-04-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森川, 晃, 伊藤, 史郎, 山口, 忠則, 金澤, 孝弘, 内川, 純一, 皆川, 恵, 北田修一 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014543

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



有明海におけるクルマエビの放流効果

森川 晃・伊藤史郎・山口忠則・金澤孝弘・内川純一・
皆川 恵・北田修一

有明海の湾奥部と湾中央部において、クルマエビ人工種苗（平均体長 37.2～46.1 mm）の尾肢切除による標識放流試験を実施し放流効果を推定した。湾奥部放流群および湾中央部放流群とも、放流開始約 1 ヶ月後から放流場所に近い漁場で再捕されはじめ、湾奥部放流群は 4 県すべてで、湾中央部放流群は主として熊本県と長崎県で再捕された。4 県全体の回収率は、湾奥部放流群は 1.39～8.69%、湾中央部放流群は 2.21～9.24% となった。放流クルマエビは天然クルマエビとほぼ同様の移動生態を示し、成長に伴って湾奥部から湾中央部、湾口部を経て、隣接する橘湾に南下移動するものと推察された。

栽培技研, 30(2), 61-73, 2003